

# 酒生団結 大壁画できた

福井市酒生小の児童と保護者らが26日、折り鶴約3千羽を張り付けて旧酒生村の村章を描いた縦2・5メートル、横3・6メートルの巨大壁画を制作した。地域ぐるみで作り上げた同校のシンボルとして、児童玄関入り口の広場に掲げた。

同校と同校に併設する酒生幼稚園のPTAが企画。児童・園児と保護者のほか地区住民も力を合わせ、約1カ月かけて計8色の折り鶴を作りためてきた。

同校体育館で行われた作業には児童と園児約200人、保護者約150人が参加。分割したパネル6枚に描かれた下絵に合わせ、折り鶴を立たせた状態にして接着剤で張り付けていった。

旧酒生村の村章は1916年に考案された。中央の「酒」の文字が角張っているのは住民の誠実さを示し、団結を表す周りの円形は「生」の字を崩してデザインされている。9枚の花びらは村内に当時あった九つの字、矢は先祖の勇ましさを意味しているという。

## 折り鶴3千羽で旧村章表現



折り鶴で旧酒生村の村章を描いた壁画(中央)を完成させた酒生小児童ら＝26日、福井市の同校

### 児童、住民1カ月かけ

力の一つの物を作れて楽しかった」と出来栄に満足げだった。

酒生幼・小PTAの松村雄一(会長41)は「子どもたちに住民同士のつながりの大切さを学んでほしかった。歴史ある村章から地域の支えで生活できていることを感じ取ってもらいたい」と話していた。

仕上がったパネルを台座に載せると、金色の折り鶴で描かれた村章と、「思いやり」が花言葉のチューリッペを両脇に添えた壁画が完成。参加者から大きな拍手が沸き起こった。吉村括哉君(4年)は「みんなの